

研究主題「話の内容や書き手の考え方をとらえる英語の読み方の指導の工夫 －物語の英文要約指導－」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
世田谷区立船橋中学校 教諭 漆畑 拓也

I 研究のねらい

新中学校学習指導要領外国語では、「読むこと」の指導事項において、「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。」と改訂された。これは、大まかな流れをつかみながら読み取ったりして、書き手の伝えようとするを正確に読み取ることを示している。

また、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」が新設された。

以上のことを踏まえ、物語のあらすじを正確に読み取り、意見や感想を述べるができる生徒を育てていくことを目指して、標記の研究テーマを設定した。

II 研究の内容と方法

1 研究仮説

以下のような仮説を設定した。

生徒が英文の物語を読む際に、物語の構造に基づいて要約を行えば、生徒は話の内容や書き手の意見などをとらえやすくなるであろう。

2 基礎研究、調査研究及び実践研究

(1) 基礎研究

ア 要約の活用の利点

要約は、話の要点を短くまとめるので書き手の意向を凝縮することができる。また、作成過程において、生徒は内容の振り返りと整理を行う必要がある。

したがって、要約を行うことで話の内容や書き手の意見等を正確に理解する読み方ができ、その読み方を通して、生徒は英文に対する感想や意見等が述べやすくなる考えた。

イ 要約の指導の方法

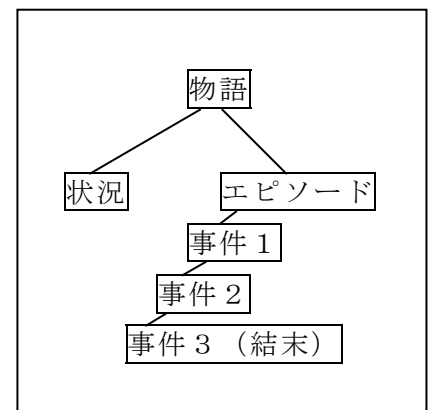
(ア) ワークシートの構成

天満（1994）は、一般に、物語には典型的な構造があり、主要部分は状況とエピソードから成り立っており、状況とは、主人公の置かれた場所、時、状態などを示し、エピソードとは出来事の発生から、事件の反復、結末を示すと述べている。（図1）

この物語の構造に基づき、ワークシートの構成を「状況」「事件1」「事件2」「事件3」に分けた。さらに、生徒が要約を作成しやすいよう、それぞれに「時」「場所」「人物」「出来事」を書く「文章構成表」を添えた。

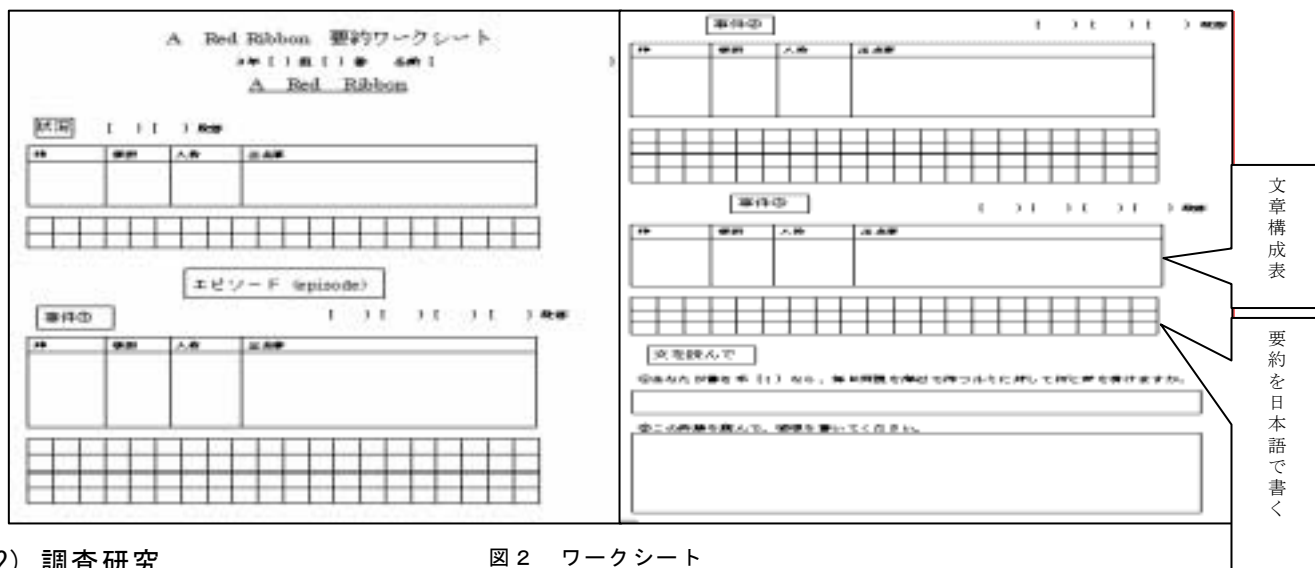
(イ) 日本語による要約の作成の指導

日本語での要約作成の指導に当たり、不必要な箇所、余剰な箇所は省略すること及び具体例やまとめられる語は上位の語で代えることを指導した。字数は、教師の模範訳の3分の1程度に設定した。



(ウ) 意見や感想を述べる学習

要約の作成を終えた後に、「あなたが書き手なら登場人物に何と声を掛けますか。」「この物語を読んで感想を書いてください。」という設問を設けた。以上(ア)、(イ)、(ウ)を組み合わせるのが図2のワークシートである。



(2) 調査研究

図2 ワークシート

検証授業前に、都内公立中学校の第3学年の生徒（4学級、計140人）に対して、質問紙による英文の「読むこと」の学習に対する意識調査を行った。

その結果、「英文の書き手の思いがわかりますか。」という質問には48%の生徒が、「話に対して自分なりの感想がもてますか。」という質問には50%の生徒が否定的に答えている。

また、「一文ごとの意味はわかるが、文章全体では言っていることがわからない。」「ただ英文を日本語に訳すだけでは、文章の内容に気持ちが入らない。」とする意見も見られた。

加えて、「英文を読む時に困難を感じるのはどんなことですか。」という質問に対し、39%の生徒が「単語がわからない」と回答した。そこで、検証授業では意味の分からない単語にとられないよう、欄外に新出単語の意味を示すといった配慮をした。

(3) 実践研究

平成21年10月20日(火)から11月17日(火)までの4週間、都内公立中学校の第3学年の生徒（4学級、計150人）を対象に、1学級につき各3時間の指導を実施した。指導計画と指導内容は表1の通りである。

表1 指導計画及び指導内容

第1時	<p>【本文の導入、日本語でのQandAを通じたの本文理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピクチャーカードを用いて、視覚的に本文の理解をさせる。 ・ 新出単語は欄外に日本語でその意味を示すことによって理解させる。 ・ 物語の構造（図1）を示し、あらすじをつかむことを第一目的に置いて英文を読ませる。
第2時	<p>【本文の理解、本文に関する文章構成表の作成、要約】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章構成表の記入の仕方及び要約の作成手順を指導する。 ・ 教員による文章構成表及び要約の模範作業を見せる。 ・ 実際に文章構成表を記入させ、要約をさせる。

第3時	<p>【本文のまとめ、要約の完成及び感想の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2時に作成した生徒の良い作品を配布し、具体的な良い点を解説する。 ・ 文章構成表及び要約を完成させ、生徒に発表させる。 ・ 書き手の気持ち及び英文の感想を発表させる。
-----	---

Ⅲ 研究の結果と考察

都内公立中学校の第3学年の生徒（4学級、計150人）に対して、本研究の検証授業実施後生徒の意識の変容を見るために質問紙による意識調査を行った。

1 検証授業後の意識調査の結果

(1) 今回の学習によって英文の内容をよくつかめるようになった

「今回の要約の学習によって英文の内容をよくつかめるようになりましたか」という質問に対し、76%の生徒が「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した。4分の3を超える数値であり、一定の効果があつたと考える。（図3）

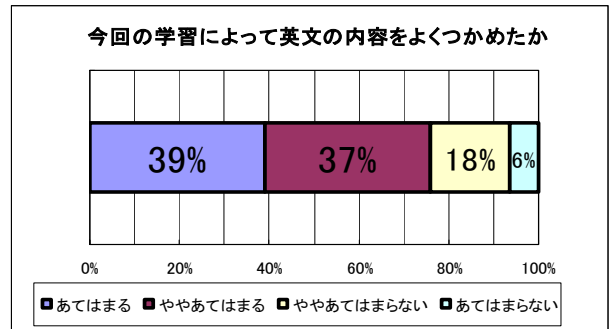


図3 「今回の学習によって英文の内容をよくつかめたか」

また、本学習によって英文の「時」「場所」「人物」「出来事」に注意を払い、英文のあらすじをとらえようとして読もうとする意識が育つたと考える。

(2) 書き手の思いに対する理解が進んだ

「英文の書き手の思いがわかりますか」という質問に対し「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答している生徒数が従前の学習の方法の51%から今回の学習の方法の77%に上がった。（図4）

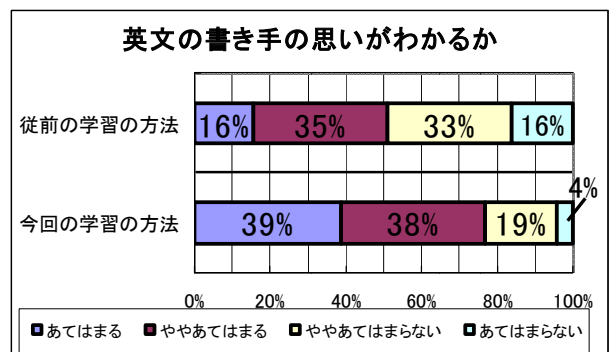


図4 「書き手の思いがわかるか」

今回の学習後の生徒の感想として、登場人物の行動に書き手の思いが表れていることが分かったので、物語を読む際にはそのような点を前提として読んでいきたい、というものが見られた。

(3) 話に対して自分なりの感想がもてるようになった

「話に対して自分なりの感想がもてますか」という質問に「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答している生徒数が従前の学習の方法の49%から今回の学習の方法の87%に上がった。（図5）

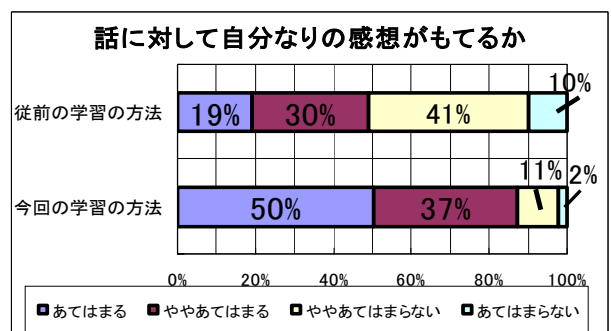


図5 「話に対しての自分なりの感想をもてるか」

以上から、今回の学習の方法は、話に対して自分なりの感想をもつことに有効だと考える。また、「他の人の意見や感想がわかり、自分の意見も発表できてよかった。」という学び合いの効果も見られた。

(1)、(2)、(3)の結果から、今回の方法の要約の指導は、生徒に英文の内容をよくつかませることに一定の効果があることが分かった。そのことは書き手の思いの理解を促進させるとともに、話に対しての自分なりの感想がもてるようにさせる有効な指導方法であると言える。

2 生徒の記述からの考察

(1) 書かれた内容や考え方などをとらえ、意見や感想を述べる学習における生徒の記述

- Q 「あなたが書き手なら、毎日両親を海辺で待つルミに対し何と声を掛けますか。」
A 「私が心の底から見守ってあげるから大丈夫。」「信じて待っていればお母さんたちは絶対帰ってくるよ。」「あなたの両親はあなたの中にずっといるから悲しまないで。」
Q 「この物語を読んで感想を書いてください。」
A 「戦争は絶対によくない。」「ルミに髪を分けてやりたい。」「戦争の怖さや残された人の悲しみを客観的に書いてあると思った。」「戦争の話はいろいろあるけれど英語で読むと別の感覚で悲しかった。」

(2) 授業全体についての生徒の感想

- 最初は面倒くさいなと思ったが、要約を作り、登場人物の気持ちなどを考えたので長文が分かりやすかったかなと思った。
- 要約をすると、より深くその話について知ることができたと思うので良いと思う。
- どれを省くのかを見分けるのが大変だった。
- みんなの意見を聞くと、内容に対して気付いていない部分があって新しい発見があった。

(1)においては、書き手の気持ちに自己の気持ちを重ね合わせ、自分の率直な感想を記しているものが多かった。

(2)においては、要約は苦勞がいるが、英文を深く読めたという記述が多く見られた。また、登場人物の気持ちや話の感想を書くことで、生徒自らが英文を進んで読めるようになったと考える。

3 研究全体を通じての考察

基礎研究、調査研究及び実践研究を通して、話の内容や書き手の考え方をとらえる英語の読み方の指導においては、以下の点が明らかになったと考える。

(1) 物語の構造を踏まえて要約させることの有効性

要約の指導は、難易度が高いため中学校の授業では必ずしも十分に行われてはいないものとする。分かりやすい指導のためにはいきなり要約に取り組みさせるのではなく、生徒に対して文章の構造を教員が示し、文章構成表を活用するなどして、生徒が要約を行いやすくする指導が必要である。それにより生徒は要約の学習が容易になり、達成感を得られる。

(2) 登場人物の気持ちや話の感想を表現させる意義

「読むこと」を通じて得た知識を自らの体験や考えに照らして「話すこと」や「書くこと」に結びつけさせることができ、英語の技能を総合的に育成することができる。

また、他の生徒の要約、感想などの発表を聞くことにより、生徒が自身の考えをより深めることになり、多くの情報や感動を得ることにつながる。

IV 今後の課題

日本語においても難度が高い要約の学習に対し生徒がより意欲的に取り組めるように、工夫を加えることが大切である。学習の進んでいる生徒には英語による要約に発展させ、学習の遅れている生徒には挿絵から内容を連想させたり、キーワードを探させたりする等の方法を実践したい。

また、今回は物語を対象としたが、説明文の要約の研究も今後の課題である。